

子どもの様子が 変だと思ったら

いじめ発見のチェックポイントで確認してみましょう！

- ☐ 登校時刻になると頭痛や腹痛などを訴え、登校を渋るようになった
- ☐ 口数が少なくなり、学校のことや友達のことを話さなくなった
- ☐ 転校を口にしたたり、学校をやめたいなどと言ったりしている
- ☐ 衣服の汚れや破れが見られたり、よく怪我をしたりしている
- ☐ 持ち物がなくなったり、壊されたり、落書きがあつたりする
- ☐ 外出しなくなり、人におびえるようになった
- ☐ 感情の起伏が激しくなり、ささいなことで怒ったり、動物に八つ当たりしたりするようになった
- ☐ 家の金銭を持ち出したり、余分な金品を要求したりするようになった
- ☐ 寝つきが悪かったり、夜眠れなかったりする日が続いている
- ☐ 無言等不審な電話や発信者の特定できないメール等がくる
- ☐ SNSのメール等をこそこそ見たり、着信の音におびえたり、いつもスマホ等を手離さない
- ☐ 仲のよかった友だちとの交流が極端に減った
- ☐ 急に学習時間が減ったり、宿題や課題をしなくなったりした
- ☐ 急激に成績が下がった

こんな様子がみられたら・・・

まず、担任の先生へ相談することが第一です。

保護者は、子育ての不安、いじめや不登校などで悩みを抱えたとき、親・きょうだい、友人などに相談することが多いものですが、それだけでは解決できないこともあります。そういうときは、迷わずに学校や各相談窓口にご相談してみましょう。



○教育に関する相談窓口

関係機関	電話番号
小樽市教育研究所	22-4812 (月～金 8:50～17:20) kyoiku-sodan@city.otaru.lg.jp
小樽市スクールカウンセラー	24-4314 (月・木 10:30～16:30)
小樽市教育支援センター登校支援室 (不登校に関すること)	32-4111 内線7530 (月～金 8:50～17:20)
子ども相談支援センター	0120-3882-56 (24時間) sodan-center@hokkaido-c.ed.jp
北海道立特別支援教育センター	011-612-5030 ※教育相談専用 (月～金 9:00～12:00 13:00～17:00) tokucensoudan@hokkaido-c.ed.jp
北海道教育庁後志教育局	0136-22-2222 (月～金 8:45～17:30)

○子育てに悩みや不安を感じたときの相談窓口

関係機関	電話番号
小樽市こども家庭センター 家庭児童相談(養育・家庭内問題など)	32-5208 (月～金 9:00～17:00) niko-niko@city.otaru.lg.jp
小樽市保健所 (こころの健康相談)	22-3110 (要予約) (月・水・金 13:30～17:00)
エンゼルキッズこども家庭支援センター	011-372-8341 (24時間 365日)
北海道中央児童相談所 子ども電話相談	011-631-0301 (24時間 対応)

○子どもの安全や非行にかかわる相談窓口

関係機関	電話番号
小樽警察署生活安全課少年係	27-0110 (月～金 8:45～17:30)
北海道警察本部少年サポートセンター 少年相談110番	0120-677-110 (月～金 8:45～17:30)

気になることが
ありましたらいつでも
ご相談ください

心豊かな子を 育てるために



中学生の子どもをもつ 保護者のみなさまへ

中学生になると、学校のことや友だちのことなどをたずねても、うるさそうにする態度に表れるなど、今までと異なった言動が見られることが多くなってきます。

これは、「親離れ」の始まりであり、自我に目覚めてきた「証し」でもあるといわれています。

この時期の家庭での教育では、子どもが自分をしっかりと見つめ、たくましく成長しようとする意欲や態度をはぐくむことが大切です。

小樽市教育委員会

心豊かに育てるためにはこれらのことが大切です

ありのままを受け入れて

子どもは、自分が親から認められているという受容感があると「やる気」を起します。

子どものありのままを受け入れることが大切です。

◇励まし、認めるなどして、子どもの自ら伸びる力を支え、援助しましょう。

◇家事の役割分担を決め、家族の大切な一員としての自覚をもたせ、自分が役立っているという実感を与えましょう。

友人関係への気配りを

友人関係を一方的に否定するような言葉は避け、友人のよさを認めることが大切です。



◇子どもの話をよく聞き、友人をよく知るようにしていきましょう。

◇子どもの抱えている悩みを理解し、受け止めるようにしましょう。

◇親の体験を話すなど、望ましい友人関係について語り合しましょう。

毅然とした態度で

子どもの自立に際しては、理解を示しながらも、良いものは良い、悪いものは悪いという態度で話し合い、場合によっては、厳しく向かい合う姿勢が大切です。

◇導くとき、叱るときは、しっかりと指導しましょう。毅然とした親の態度、ぬくもりのある心、真剣で愛のある言葉は、子どもの心を揺り動かします。

◇親子関係は継続的です。結論を急がず、時には待つ姿勢も大切にしましょう。

社会の一員としての自覚を

子どもは、将来自立した人間として社会生活を送っていくために、視野を広げ、考えの幅を大きくすることが大切です。



◇学校の諸行事、部活動、クラスの出来事を通して集団の在り方について語り合しましょう。

◇社会的に話題となっていることについて、話し合しましょう。

自分をしっかりみつめ よりよく成長しようとする 意欲や態度を育てましょう

中学生の子どもたちは、青年期への移行期に入り、身体的、精神的発達の上で極めて変動の多い不安定な時期を迎え、学校での人間関係や学習の問題、大人社会の矛盾や疑問から来る不満や反抗など多くの特徴をみることができます。

しかし、一方では正義感や仲間意識が強く、また、将来について真剣に考え始めようとするなど良い面での特徴も併せもっています。

中学生の特徴を理解し、 心豊かに育てましょう。